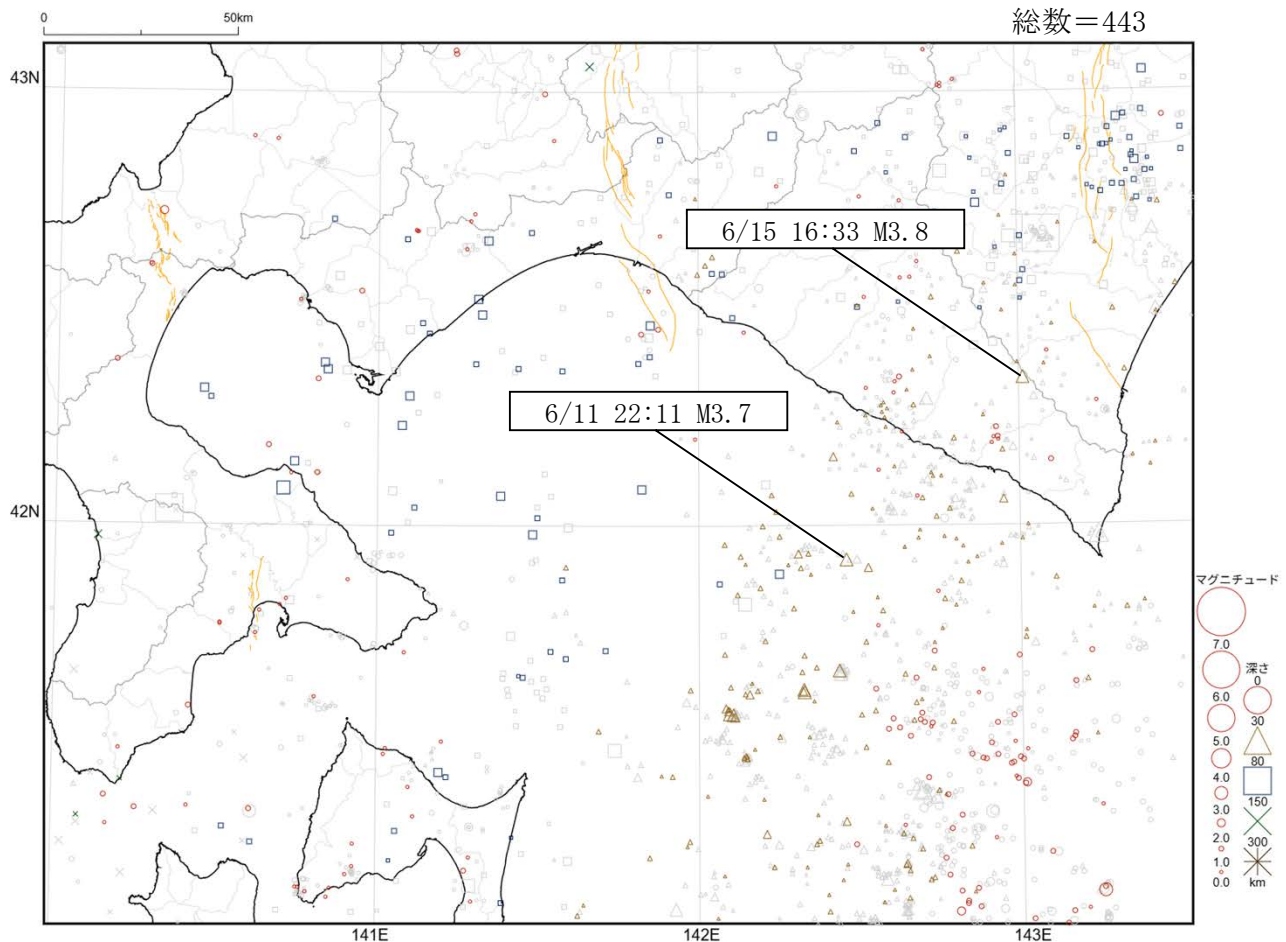


胆振・日高地方の地震活動図

2026年6月

室蘭地方気象台

震央分布図



- ・ 図中橙色の線は、地震調査研究推進本部が地震発生可能性の長期的な確率評価を行った主要活断層を表します。
- ・ 過去の地震と比較するため、前3ヶ月（今期間を含まない）の震央を灰色のシンボルで表します。
- ・ 本資料中の地図の作成にあたっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図25000（行政区・海岸線）』を使用しています（承認番号平29情使、第798号）。

地震概況（2026年6月）

この期間、胆振・日高地方の震度観測点で震度1以上を観測した地震は6回（5月は6回）で主な地震は以下のとおりです（「胆振・日高地方で震度1以上を観測した地震の表」参照）。

11日22時11分、浦河沖の地震（M3.7、深さ65km）により、新ひだか町、浦河町で震度1を観測しました。

25日07時30分、岩手県沖の地震（M7.2、深さ44km、震央分布図の範囲外）により、むかわ町、新冠町、新ひだか町、様似町で震度4を観測したほか、胆振・日高地方の14市町で震度3～2を観測しました。（別紙参照）

28日05時21分、岩手県沖の地震（M6.1、深さ41km、震央分布図の範囲外）により、新冠町で震度3を観測したほか、胆振・日高地方の17市町で震度2～1を観測しました。

30日23時02分、岩手県沖の地震（M4.9、深さ39km、震央分布図の範囲外）により、室蘭市、むかわ町で震度1を観測しました。

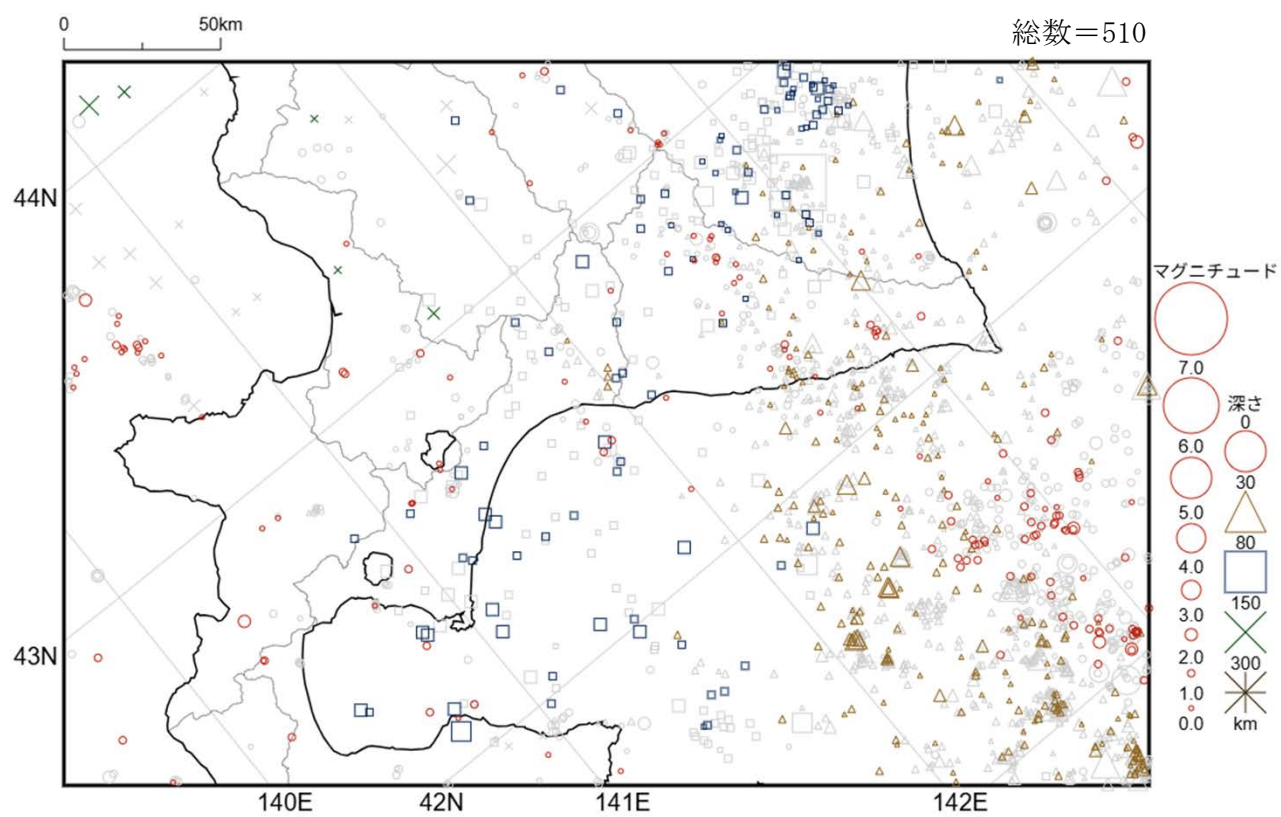
この活動図は、室蘭地方気象台のホームページに掲載しています。

<https://www.data.jma.go.jp/muroran/>

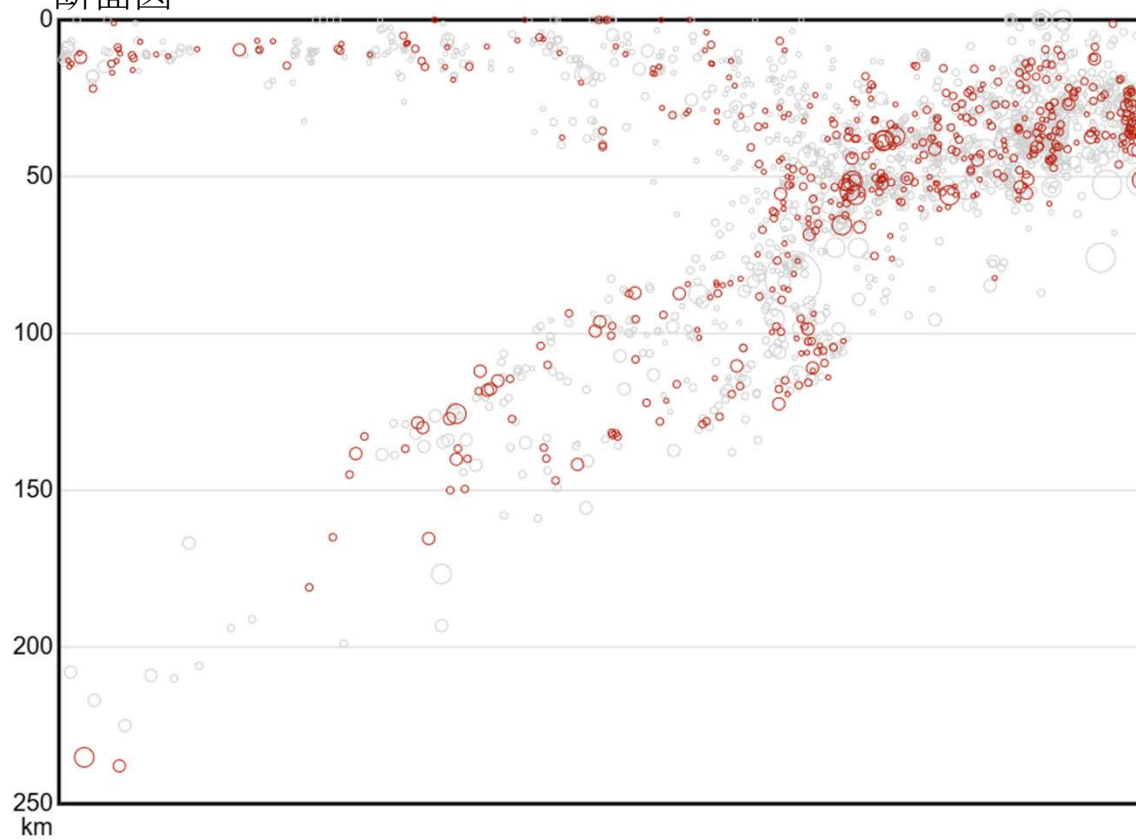
この資料に関する問い合わせ先 室蘭地方気象台 TEL 0143-22-4249

2026年6月

震央分布図



断面図

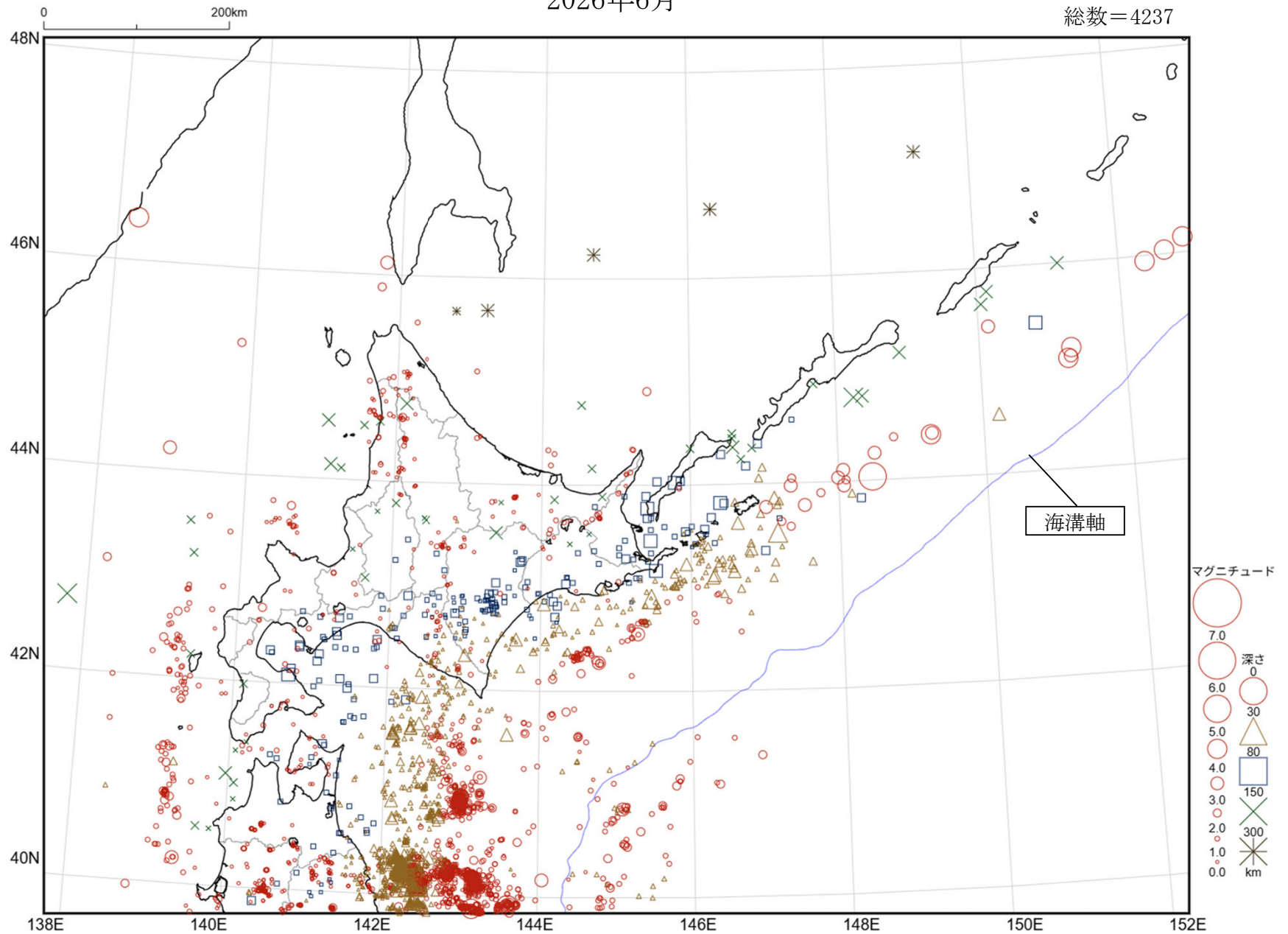


北海道の地震活動図

震央分布図

2026年6月

総数=4237



胆振・日高地方で震度1以上を観測した地震の表 (2026年6月)

	年 月 日 地方	時 分 震度	震央地名 震度観測点名	北緯 (N)	東経 (E)	深さ (k m)	規模 (M)
1	2026年 6月10日 日高地方	19時34分 震度 1	日本海北部 浦河町潮見 (06)	43° 31.7' N	136° 00.0' E	368 k m	M5.6
2	2026年 6月11日 日高地方	22時11分 震度 1	浦河沖 新ひだか町三石旭町* (05) 浦河町潮見 (07) 浦河町築地* (06)	41° 55.3' N	142° 27.5' E	65 k m	M3.7
3	2026年 6月15日 日高地方	16時33分 震度 1	日高地方東部 浦河町野深 (07) 浦河町潮見 (09) 浦河町築地* (08)	42° 20.4' N	143° 00.7' E	56 k m	M3.8
4	2026年 6月25日 2026年 6月25日 2026年 6月25日 胆振地方 日高地方	07時30分 07時31分 07時33分 震度 4 震度 3 震度 2 震度 4 震度 3 震度 2	岩手県沖 岩手県沖 岩手県沖 むかわ町松風* (36) 胆振伊達市梅本 (29) 胆振伊達市末永町* (29) 壮瞥町滝之町* (29) 洞爺湖町栄町* (26) 洞爺湖町洞爺町* (27) 室蘭市寿町* (32) 苫小牧市末広町 (33) 苫小牧市旭町* (33) 登別市桜木町* (25) 白老町竹浦 (32) 白老町緑丘* (27) 厚真町鹿沼 (33) 厚真町京町* (32) 安平町早来北進* (34) 安平町追分柏が丘* (27) むかわ町穂別* (30) 胆振伊達市大滝区本町* (24) 豊浦町大岸* (20) 室蘭市山手町 (17) 登別市鉾山 (19) 新冠町北星町* (39) 新ひだか町静内山手町 (36) 様似町栄町* (35) 日高地方日高町日高* (27) 日高地方日高町門別* (33) 平取町本町* (25) 平取町振内* (31) 新ひだか町静内御園 (29) 新ひだか町静内御幸町* (33) 新ひだか町三石旭町* (28) 浦河町野深 (30) 浦河町潮見 (34) 浦河町築地* (33) えりも町えりも岬* (25) 平取町仁世宇 (19) 新ひだか町静内農屋* (24) えりも町本町 (17) えりも町目黒* (17)	40° 12.6' N 40° 07.2' N 40° 11.9' N	142° 18.2' E 142° 24.0' E 142° 20.6' E	44 k m 34 k m 40 k m	M7.2 ☆ M5.0 ☆ M3.5 ☆
5	2026年 6月28日 日高地方 胆振地方	05時21分 震度 3 震度 2 震度 1 震度 2 震度 1	岩手県沖 新冠町北星町* (26) 日高地方日高町門別* (15) 平取町振内* (15) 新ひだか町静内山手町 (23) 新ひだか町静内御幸町* (19) 新ひだか町三石旭町* (16) 浦河町野深 (15) 浦河町潮見 (18) 浦河町築地* (16) 様似町栄町* (24) 平取町本町* (07) 新ひだか町静内御園 (13) えりも町えりも岬* (12) 壮瞥町滝之町* (16) 室蘭市寿町* (19) 苫小牧市末広町 (16) 苫小牧市旭町* (17) 白老町竹浦 (18) 厚真町鹿沼 (19) 厚真町京町* (19) 安平町早来北進* (20) むかわ町松風* (23) むかわ町穂別* (15) 胆振伊達市梅本 (14) 胆振伊達市大滝区本町* (12) 豊浦町大岸* (08) 洞爺湖町栄町* (14) 洞爺湖町洞爺町* (14) 室蘭市山手町 (07) 登別市鉾山 (05) 登別市桜木町* (13) 白老町緑丘* (10) 安平町追分柏が丘* (12)	40° 12.4' N	142° 22.0' E	41 k m	M6.1
6	2026年 6月30日 胆振地方	23時02分 震度 1	岩手県沖 室蘭市寿町* (05) むかわ町松風* (05)	40° 05.4' N	142° 25.8' E	39 k m	M4.9

☆ 近接した地域でほぼ同時刻に発生した地震であるため、震度の分離ができないことを示します。
地震は規模順に並べています。

*のついている地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。
() 内の数値は0.1単位の詳細な震度 (計測震度) の小数点を省略して表しています。

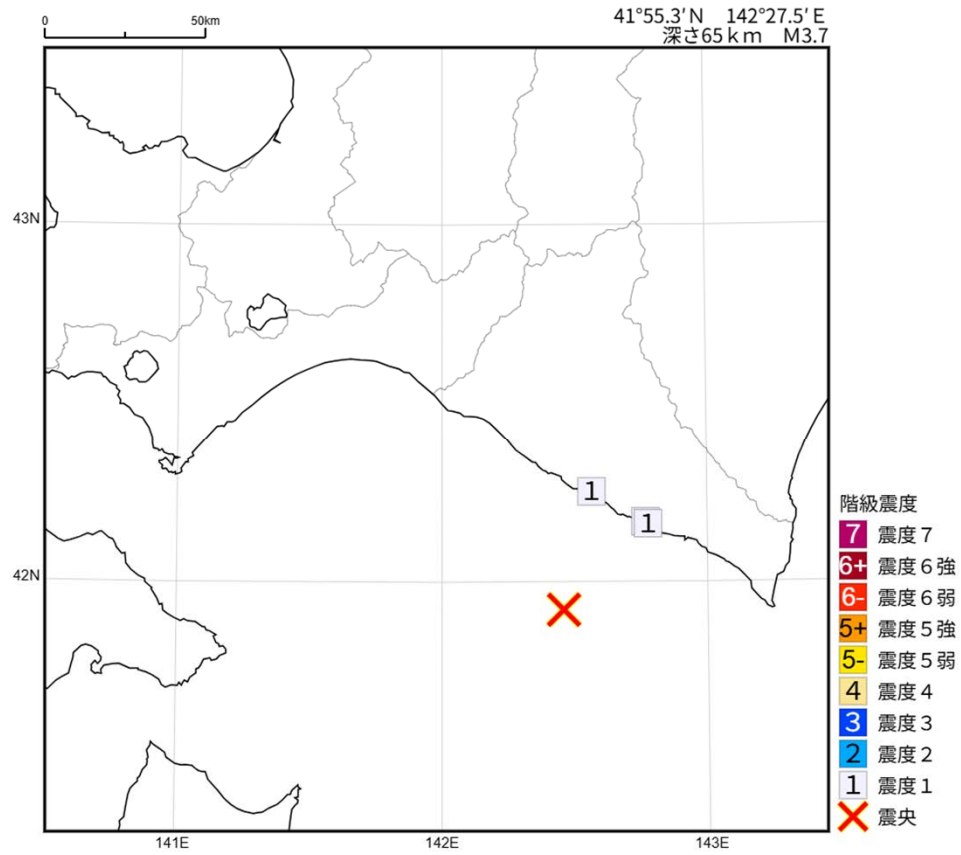
計測震度と震度階級の関係

計測震度	～0.4	0.5～1.4	1.5～2.4	2.5～3.4	3.5～4.4	4.5～4.9	5.0～5.4	5.5～5.9	6.0～6.4	6.5～
震度階級	0	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7

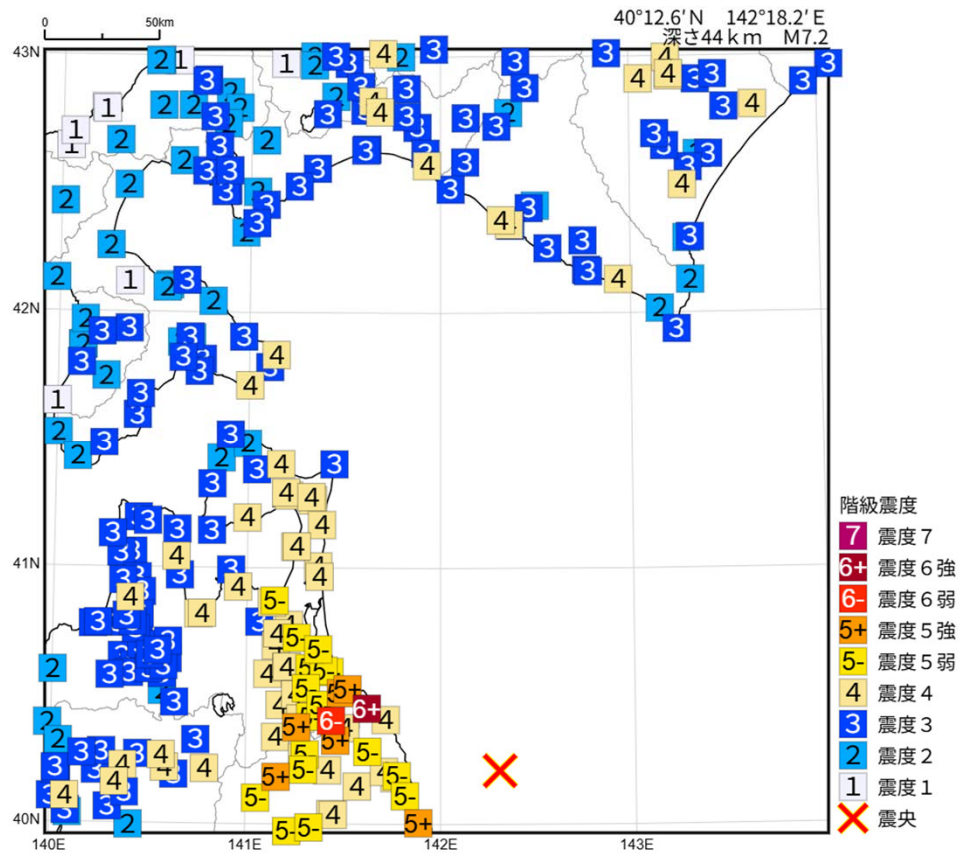
本資料の利用にあたって

- ・本資料の震源要素及び震度データは暫定値であり、データは後日変更することがあります。
- ・本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを使用しています。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点 (河原、熊野座)、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点 (よしが浦温泉、飯田小学校)、2025年トカラ列島近海における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点 (平島、小宝島)、EarthScope Consortium の観測点 (台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東) のデータを用いて作成しています。

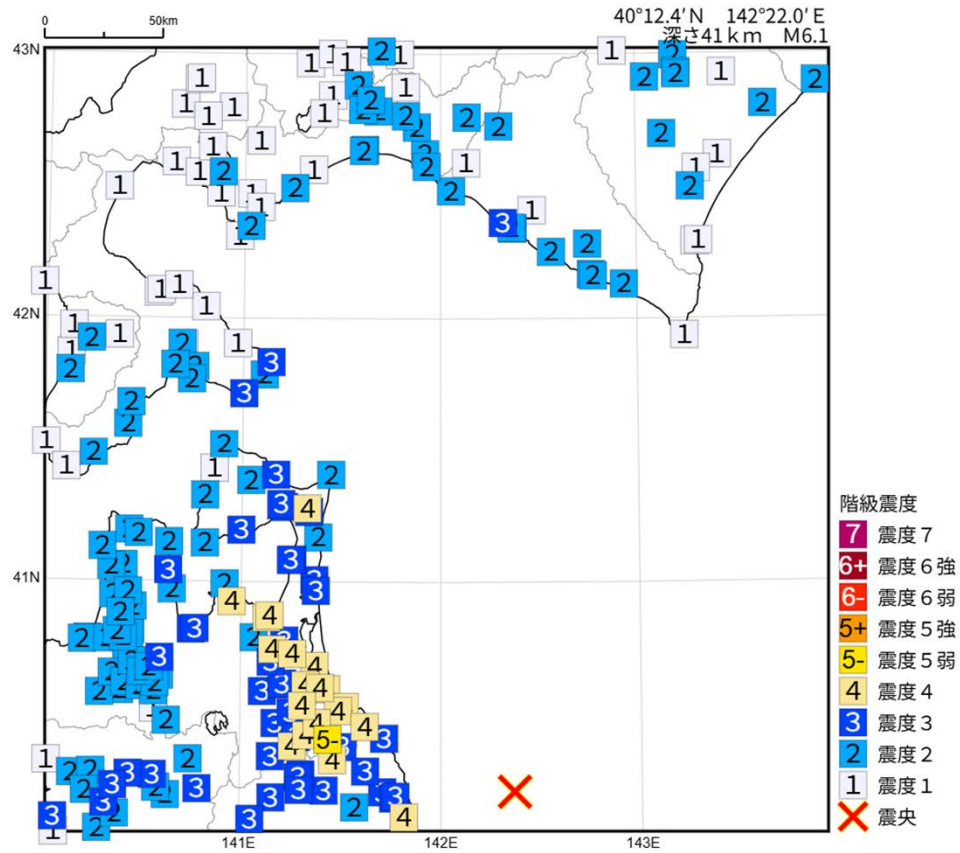
2026年 6月11日 22時11分 浦河沖の地震の震度分布図



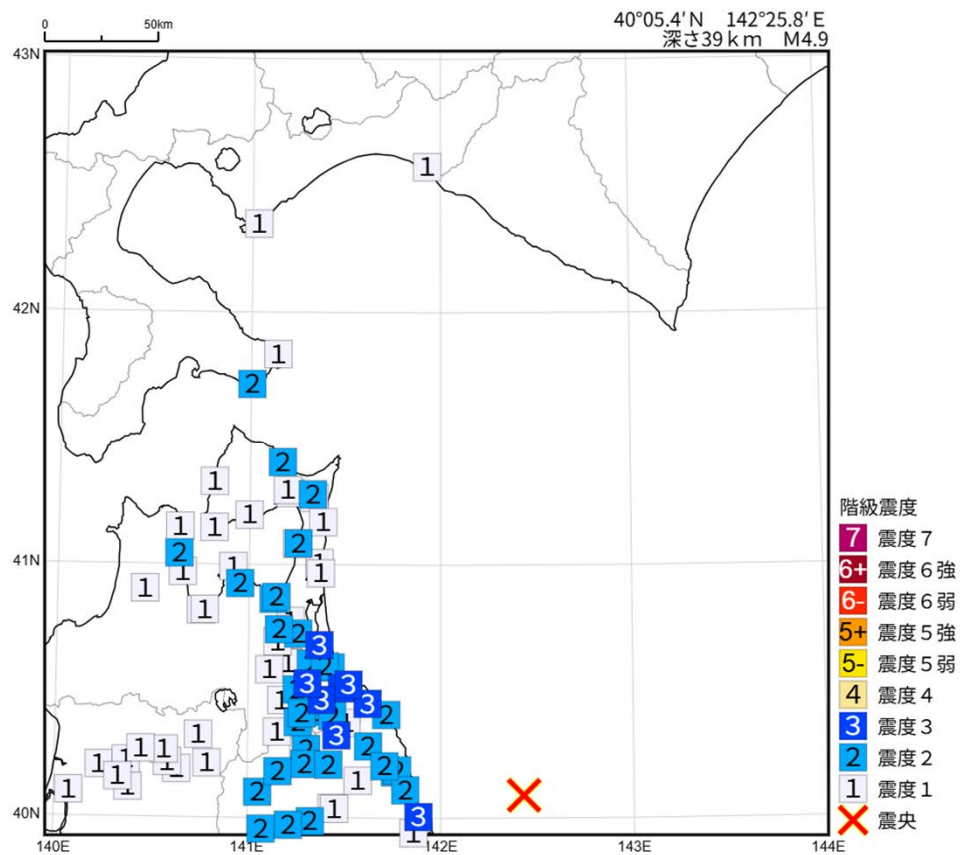
2026年 6月25日 07時30分 岩手県沖の地震の震度分布図



2026年 6月28日 05時21分 岩手県沖の地震の震度分布図



2026年 6月30日 23時02分 岩手県沖の地震の震度分布図



6月25日 岩手県沖の地震

震央分布図

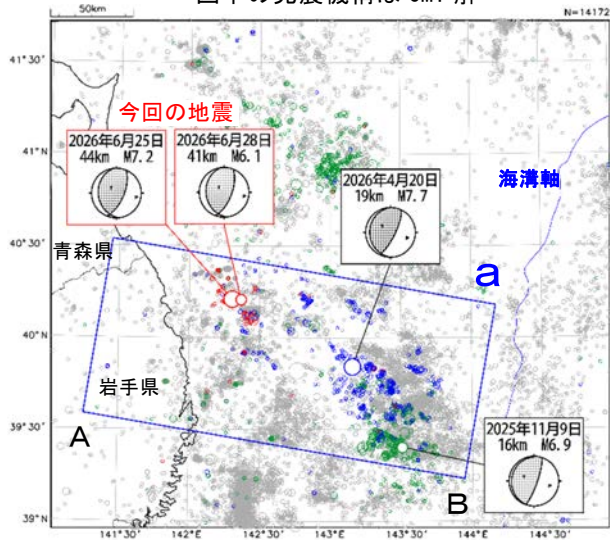
(2001年10月1日～2026年7月4日、
深さ0～100km、 $M \geq 3.0$)

● 2025年11月4日～2026年4月19日

● 2026年4月20日～2026年6月24日

● 2026年6月25日～

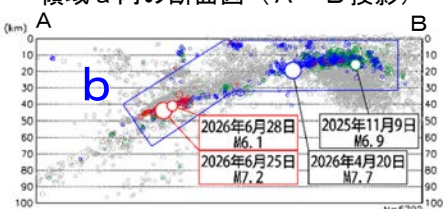
図中の発震機構はCMT解



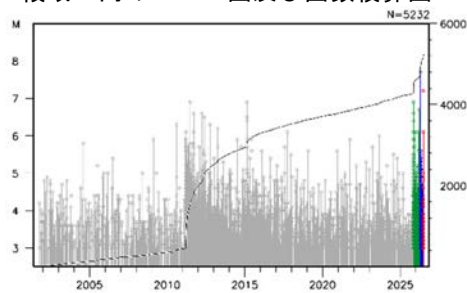
2026年6月25日07時30分に岩手県沖で発生した地震 ($M7.2$ 、深さ44km) により、青森県階上町で震度6強を観測したほか、北海道で震度4～1を観測した。また、北海道で長周期地震動階級2を観測した。この地震の発震機構 (CMT解) は、西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した。今回の震央周辺では6月25日から30日までに北海道で震度1以上を観測した地震が5回 (震度4: 1回、震度3: 1回、震度2: 1回、震度1: 2回) 発生した。

今回の地震の震央周辺 (領域b) では、2025年11月4日からまとまった地震活動が見られるようになり、2025年11月9日に $M6.9$ の地震 (最大震度4) が発生した。また、 $M6.9$ の地震の北西側で2026年4月20日に $M7.7$ の地震 (最大震度5強) が発生し、地震活動域がさらに北西側に広がった。今回の地震は、これらの活動域の北西端で発生しており、今回の地震の震源付近では、6月28日に $M6.1$ (最大震度5弱) の地震が発生するなど、活発な地震活動は継続している。

領域a内の断面図 (A-B投影)

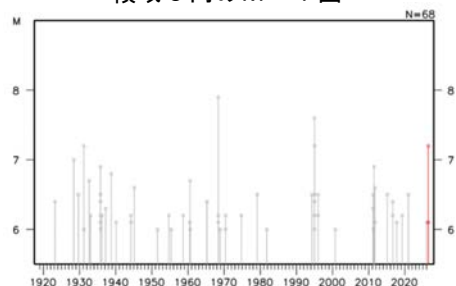


領域b内のM-T図及び回数積算図



1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺 (領域c) では、 $M7.0$ 以上の地震が時々発生している。1968年5月16日には「1968年十勝沖地震」 ($M7.9$ 、最大震度5) が発生し、北海道では浦河で290cm (平常潮位からの高さ) の津波を観測したほか、死者2名、負傷者133名、住家全半壊515棟などの被害を生じた (被害は、日本被害地震総覧による)。

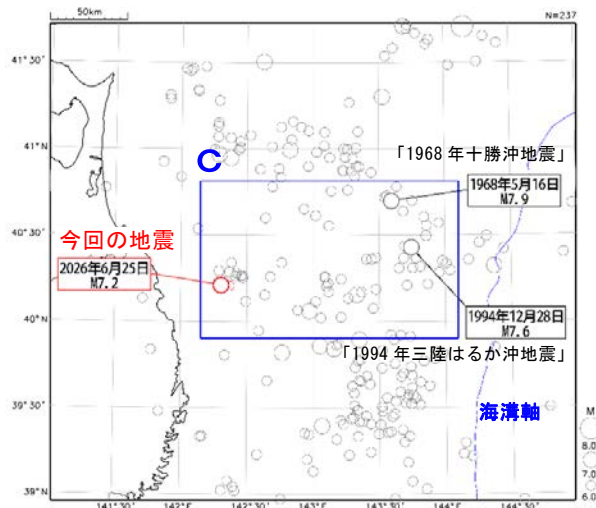
領域c内のM-T図



震央分布図

(1919年1月1日～2026年6月30日、
深さ0～100km、 $M \geq 6.0$)

2026年6月に発生した地震を赤色で表示



【防災メモ】

～津波フラッグは避難の合図～

●津波フラッグ

「津波フラッグ」は、大津波警報、津波警報、津波注意報（以下、「津波警報等」という）が発表されたことをお知らせする旗です。

津波警報等は、テレビやラジオ、携帯電話、サイレン、鐘等、様々な手段で伝達されますが、令和2年6月から海水浴場等で「津波フラッグ」による視覚的伝達が行われています。北海道内でも昨年7月のカムチャツカ半島東方沖の地震で津波警報等の発表時に活用されました。「津波フラッグ」を用いることで、聴覚に障がいをお持ちの方や、波音や風で音が聞き取りにくい遊泳中の方などにも津波警報等の発表をお知らせできます。海水浴場や海岸付近で津波フラッグを見かけたら、速やかに避難を開始してください。



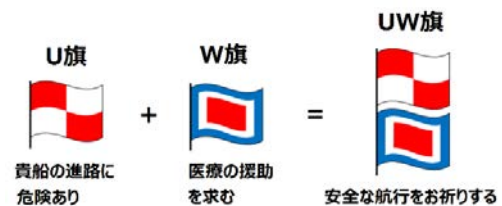
写真 津波フラッグ活用事例
令和7年7月30日のカムチャツカ半島東方沖の地震の際に大分県大分市の田ノ浦ビーチに掲げられた津波フラッグ



津波フラッグは、長方形を四分分割した、赤と白の格子模様デザインのデザインです。主に船舶間の通信に用いられ、「貴船の進路に危険あり」を意味する国際信号旗である「U旗」と同様のデザインとしています。

※U旗は右図のように他の国際信号旗と組み合わせることで、別の意味になることがあります。

(例：U旗とW旗（同じく国際信号旗）を組み合わせると「安全な航行を祈る」の意味となります。)



●参考 URL（気象庁 WEB サイト）

津波フラッグの解説：

https://www.data.jma.go.jp/egev/data/tsunami_bosai/tsunami_bosai_p2.html

